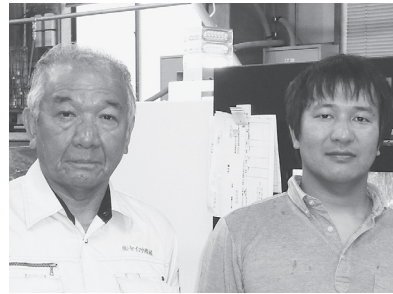


## 趣味の釣りが将来の仕事につながったら

### 株式会社 セイコウ機械



(左) 代表取締役 小林清浩氏  
(右) 小林秀行氏  
柏崎市北斗町3-18  
Tel.24-1309 Fax.24-1319

チュアグループが海岸公園の野外ステージで演奏したコトもあって、その時のご縁から」

趣味は？「魚釣り一筋」「磯でのインダイ・クロダイ」「河原でのアユの友釣り」貝を餌にした険しい磯での海釣りは六十歳で区切りにされたそうだが、長男の秀行さんにバッチリ引き継がれている。秀行さんはルアーでのシーバス（スズキ）釣りを得意としていて、大会参加で上位進出を積み重ね、石川や秋田から声が掛かるほどの存在になっている。

二十代・三十代での仕事は？「普通旋盤二級技能士に当時最年少で合格したくらい技能の習得には貪欲に打ち込んだ。その後横形マシニングセンター、立形マシニングセンター、センタレス円筒研削盤も使いこなす多能工となる経験にも恵まれた」現場での実績を評価され、いわゆる外注係と呼ばれる役割も担った。

独立された経緯は？「外注担当として、柏崎や長岡の様々な企業の得意な分野を知ることができた。加えて鉄工所の社長さんや直接の担当者との信頼関係を築く機会にもつながっていた。窓口の役割でも納期に間に合わない場合、自分で加工してしまうことも度々あった」これらの経験を通して一人での対応の可能性を見出した。

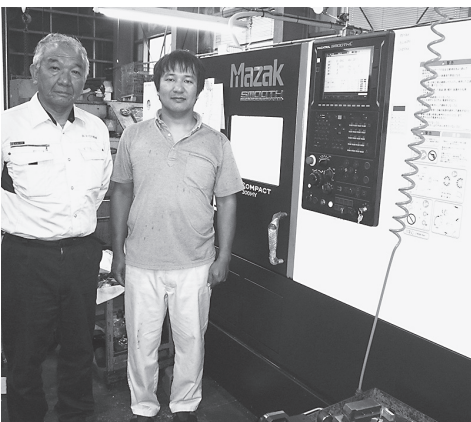
一九九〇年・四十歳を前にして自宅の納屋を改造し、普通旋盤一台の設備から奥さまと二人三脚でのスタートを切る。長男秀行さんは、製缶・板金加工を得意とする市内田塚の鉄工所で十年ほど経験を積んだ。その後一緒に力を発揮するようになっていた二〇一三年に現在の北斗町に移転してきた。

将来は？「もう一台NC旋盤を」「できれば新しいマシニングセンターも……社長としてはここまでかな？」

七十歳となる四年後には代表を引き継いで、勤務時間を調整しながら手伝っていければと考えている。

営業品目にある釣り具部品は？「あるメーカーのスピニングリール専用に息子が切削加工したものを知人に提供したことがあって……これからの一つの方向性かもしれない」

(十人衆(笑)取材)



秋を感じる少し肌寒くなった九月下旬、市内北斗町の機械部品・治具製作の株式会社セイコウ機械を訪ね、代表取締役 小林清浩氏から話をお聴きした。小林氏は一九五二年生まれ、柏小・一中・柏崎三高を卒業。市内田塚の製作所で汎用旋盤の担当からスタートし、同年代の若手で切磋琢磨しながら技能士をめざす職人の道を突き進んだ。

どんな子ども時代？の問いに「魚釣り」「母の実家の中浜で裏浜から泳ぎながらメジナを狙っていたかな」部活は？「卓球部」「兄は実績を残したが、自分はパツとしない感じだった」

奥さまとの出会いは？「二十代では仲間とバンド活動をしていて、アリスやシモンズの前座で市内のアマ